

<p><b>【学校教育目標】</b> 「真理 正義 敬愛 自律 実践」の教育綱領に込められた理念に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間の育成をめざし、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p><b>【目指す学校像】</b> 本校の使命： 但馬で唯一の定時制高校として、多様な生徒の学びを支援しつつ、地域に学び、地域に貢献しながら良き社会人を育成する学校</p>	<p><b>【評価基準】</b> 5－目標を達成できた 4－目標をほぼ達成できた 2－目標達成には少し至らなかった 1－達成目標をかなり下回った</p>
---	--

- 領域 (学校経営の重点)
- ① 秩序ある学校生活を送るために基本的な生活習慣を確立し、明るい学校づくりを図る。
  - ② 基礎基本の定着と活用する力の育成を図り、主体的に生きる力を育む。
  - ③ 社会の変化に対応できる調和のとれた人間形成を目指す。
  - ④ 命や人権を大切にすることを育み、安心・安全な学校づくりに努める。
  - ⑤ 教職員の専門性と実践的指導力を高め、地域から信頼される学校づくりを図る。

- 【総合的な学校関係者評価】**
- 授業中の携帯電話に関する指導については大変だと思うが、社会に出た後の事も視野に入れて「ダメなものはダメ」という厳しい指導でよいのではないかと。
  - 様々な生育歴、教育歴の生徒が在籍しているが、教員が一人ひとりが個々の生徒について丁寧に対応し、関わっている。
  - 地域貢献をはじめとした多くの学校行事を実施し、生徒がそれら行事を通して活躍の場を与えられることで達成感と自信に繋がっている。
  - 学校も生徒も落ち着いている。生徒が学校に馴染み、居場所がある。
  - 母子家庭が多く、貧困率が高いように思う。その様な生徒にとって高校卒業は大きな意味があり、行政と連携して支援する必要がある。

全体の平均 4.09

A: 5.0~4.0  
B: 3.9~3.0  
C: 2.9~2.0  
D: 2.0以下

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	評価指標に対する成果	評価平均	評価	課題・改善の方策等
総務	1	⑤	生徒が地域に直接的にかかわる行事を創りあげる。	地域交流発表会において地域住民の方に15名以上参加していただき、アンケートに「参加して良かった」と70%以上の方に評価してもらう。定時制祭に保護者・地域住民等の来校者が100名以上参加していただき、アンケートに「参加して良かった」と70%以上の方に評価してもらう。	定時制祭は目標来校者数を達成し、参加者からも概ね参加してよかったという評価をいただいた。生徒も積極的に活動でき、バザーを完売した達成感を得たものが多い。評価指標には設定していなかったが、12月に実施した地域貢献事業では生徒製作のミニチュアランドセル250個を城崎温泉街にて配布し、好評を得たことはよかった。地域交流発表会は3月実施であるが、成功に向け準備が進んでいる。	4.3	A	12月に実施したミニチュアランドセルを配布する地域貢献事業について、現在は上級生中心の配布であり、今後は全生徒を外で活動できる行事として発展的に活動していきたい。また、地域交流発表会を生徒の年間の活動の集大成という位置付けにして、地域に還元できるものにならなければならない。
	2	②	情報教育の推進と情報機器を整備して授業環境を改善する。	授業内での情報機器の利用回数、年間70回以上を目指す。	国語で書画カメラを使用したり、地学基礎でパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行うなど、各教科で情報機器の使用をした授業が展開され目標利用回数を達成した。ユニバーサルデザインの観点からも視覚的支援を徐々に進める環境が整えられてきた。	4.4	A	現在モニターの設置されている教室に限られ、パソコンの使用も情報教室を使用しなければならないため、授業でICT関連機器を導入するために、教室割を工夫して、授業者にとっても生徒にとっても利用しやすい環境を作る必要がある。
教務	3	⑤	授業アンケート、公開授業を有効に活用し、教職員の教科指導力を高める。	職員アンケートを実施する。項目「授業アンケート、公開授業が自らの授業改善に役立った」で、良の合計が80%を超える。	第2回職員アンケートの結果、100%の職員が「授業改善に役立った」と回答した。今後はその「役立つ」質をよりよいものにしていくために、部としての工夫を考えていきたい。	4.4	A	授業に関しては、教務部だけでなく、生徒指導部、または保健部とも連携した形で活動できればと考えている。様々な部からの視点で授業改善がなされればと考えている。
	4	⑤	3修制の円滑な運用を目指す。	職員アンケートを実施する。3修制の項目の良の合計が80%を超える。	第2回職員アンケートの結果、良の合計は87.5%であった。概ね好意的であったが、「授業形態等の問題があるのでは」という意見もあった。意見を踏まえ、今後は授業形態、教員の割り振り等も考え、再度検討していきたい。	4.3	A	来年度は0校時授業だけでなく、新しく実施される総合的な探究の時間も含めた実施形態、職員配置を考えていきたい。トラブル等があってもスムーズに対応できるように、余裕を持った配置を考えていきたい。
生徒指導	5	①④	生徒の日常的な危機意識の向上を図る	安全教育講演会を実施し、事故やトラブルの発生を予防する。職員アンケートを行い、各行事ごとに4段階評価を行い、年度末に総合で3.4以上を目指す。	交通安全講習会3.6、ネット犯罪防止講演会3.5、総合評価3.55で、目標は達成することができた。両行事ともに内容も良く、生徒の理解度も良かったと感じた。今後も継続していきたい。	4.4	A	両行事ともに行われるようになってから3、4年が経過し、ある程度の評価を得ることができた。より危機意識の向上を図るため、内容の改善や時期の検討をしていきたい。
	6	①④	暴力・いじめ等の人権侵害に対して厳しく対応し、安心して学べる学校とする。	いじめ案件0を目指す。生徒の変化に迅速かつ正確に対応し、職員の情報共有を徹底する。	いじめ案件は1件あり、目標達成とはならなかった。生徒の実態として表面上では落ち着いてはいるものの、掴みにくい生徒が非常に多くいると感じる。生徒の言動や行動、変化に敏感に気づき、職員間の情報共有を徹底していく。	2.8	C	生徒の実態把握があまりできていなかったと反省する。面談や日頃の生活をしっかりと観察し、生徒の変化に敏感に対応する。「いじめはどこでもあり得る」という意識を職員全員が持ち、情報共有の徹底など継続してやっていきたい。

分掌	NO	領域	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	評価指標に対する成果	評価平均	評価	課題・改善の方策等
進路指導	7	③	個々の適性を見つけ、将来に向けて勤労観や労働観を養成する	各学年における進路講演会、出前授業、面接指導、企業見学などの行事参加率を、アルバイトなどの事情を考慮して80%を目指す。	年間の各種進路行事における参加率は89%と、中間評価時(84%)に比べ5%アップした。事前指導や担任分掌間の連携が参加率のアップにつながった要因と考える。	4.2	A	進路希望調査をもとに、上級学年(卒業学年)を中心に各種行事を設定してきたが、より主体的に進路意識を感じることができることが参加率アップへの課題である。改善策として、進路部発信の通信や掲示物でより意識向上を図りたい。
	8	③	4年間の発達段階をとらえ、生徒に見通しを持たせるキャリア教育を実践する	年度当初に定めた各学年のテーマをもとに、各種行事におけるアンケートを実施し、実施前と実施後の変化を把握し、職員へ共有していく。	各学年のテーマのもと実施した全行事では、今後の進路を考えるにあたって前向きな意見回答が93%となった。しかし、講演や体験をきっかけにその職種で就職したいと考えた生徒は20%と少なかった。生徒の職業意識を検討したうえで、行事のマッチングを検討する必要がある。	3.3	B	全生徒の進路先ニーズに合わせた行事設定は難しいため、自己有用感や自信につながるような設定をすることが課題である。改善策として、進路ノートを作成し、課題が意識できるような取り組みにしたい。
保健	9	5	特別支援教育の観点から授業のユニバーサルデザイン化をはかる	関連する職員研修を年間3回行う。生徒から授業が分かりやすくなったという声を拾い上げ、教務実施の授業アンケート「先生の説明はわかりやすいですか」において、1回目から2回目で平均5ポイント上げる。	想定していた以上の効果があった。職員研修は計画に加え、実践的研修や情報提供など多く行った。公開授業月間などの場において教員間で成果を共有し、教務部のアンケートでも授業改善の工夫した点でUDが多く挙げられていた。教務実施の授業アンケートでは、「説明のわかりやすさ」が1回目80% → 2回目89%と9ポイントアップし、授業改善の効果が生徒にも伝わったとみられる。	4.9	A	離転職で職員が変わっても、趣旨と実践方法を伝え、継続的に実施することが肝要である。日々の授業実践が共有され、学校として向上していくことが望ましい。
	10	4	保健室の利用者総数を減らし、日常的な健康をたもてるよう早期対応を促す	保健室の利用総数を前年度に比べ30%減らし、必要とする生徒が利用できない状況がないようにする。	目標の2倍程の成果があった。4月から1月までの利用総数が前年度より70.6%減少した。生徒が利用できない状況はほぼなく、惰性でなんとなく保健室に行くという生徒は見られなくなった。自分の居場所は教室(授業)であるという意識が定着したものと考えられる。	4.6	A	総数は大幅に減少しているが、6月と9月の利用者数が極端に増えるという課題が残っている。生徒に対してどのようなケアが必要か、来室目的別に改善案を分析し、来年度へとつなげたい。
4年	11	③	自分自身で、進路について考え、行動し、決定することができる。	進路決定率100%を目指す。	進路決定率100%を達成した。就職に関しては、全員が正規雇用という選択肢を選んだわけではないが、それでもそれぞれが意志決定できた。早い段階から進路の意識付けを行ってきた結果だと捉えている。	4.8	A	今回は学校を介した就職者が少なく、日々の勤務先が、自分の進路に大きく影響した生徒が多かった。日々働くことを通じて、各々が自身の進路を見据えていたことに頼もしさを感じた。
3年	12	②③	基本的なことを徹底して行い、各々が目標に向けて自主的に取り組むことができる。	前年度に比べ遅刻・欠席日数を全体で30%減らす。また、生徒指導部アンケート⑥「今、自分には目標や夢がある」で、良の合計が80%以上を目指す。	1月末段階で昨年同時期の全体の欠席日数は26.5%減った。3修制の2名は46.2%減であり、5名とも昨年度より欠席日数は増えなかった。目標には3.5%届かなかったが、5人という少ない人数の中での今回の結果は評価できる。前回の進路希望調査では、将来の方向性がある程度定まった生徒は60%であったが、1月の同調査では80%であった。面談等を通して、より将来像が具体的に変わった生徒が多い。	3.7	B	目標の設定と振り返りを継続して行っていく。自身の進路実現に向けて考える機会を増やし、その進路実現に向けて先を見て取り組ませていきたい。また、社会に出ても困らないように成長できるような関わり方をしていきたい。
2年	13	①②	仕事と学業の両立を目指す。アルバイトなどでしっかりと働き、夕方からは授業に集中して取り組む。	授業の参加率90%を目指す。就労を継続して行っている生徒数10名以上を目指す。	在籍11名の平均授業参加率は2月7日時点で、86.0%である。欠席が多い生徒もおり、やや学校に通うことへの意識の低い生徒がおり、今後、より居場所づくりを力を入れる必要がある。アルバイトを年間を通して継続することができた生徒が在籍11名中9名であった。目標は下回ってしまったが、昼働き夜学ぶリズムが定着した生徒が多い。就労していない生徒は進学に向け課外での学習活動に取り組んでいる。	3.1	B	1年生から2年生には進級できたが卒業まではまだ期間があり、目標を持って取り組むことが難しい学年であったことから、資格取得などを活用して目先の目標に向け頑張らせる指導をしなければならぬ。また、声かけも、自立して自ら卒業するためには何をすべきなのかを問えるように考えさせる指導に切り替える必要がある。
1年	14	①②	学校生活を中心とした挨拶や時間厳守など生活リズムの定着を図り、授業を大事にすることを徹底する。	授業に参加することを前提として、授業妨害による退場0人を目指す。また学校に不慣れということを考慮して、自分の言動に対して素直に反省できるよう指導していく。	授業妨害による退場は0名であり、中間報告時と変化はなかった。授業遅刻は大幅に減ったが、体調不良等による欠席者が増え、1学期一人あたり平均3.1日が2学期末で9.1日になった。自分の言動に対して、素直に反省する点については、悪態や反抗することではなく臨めているので、今後も各部署や学年と連携を図り学校生活に取り組ませたい。	3.9	B	目標と緊張感をもって、規範意識や授業規律を個々や集団で持てるかが課題である。改善策として、個人・集団レベルでの過去と未来を考察できる啓発活動を実施していきたい。